

最後の晚餐から、十字架、復活まで – 33300の文字に記された真実の物語 –

## ► 最後の晩餐（ニサンの月の 14 日）

②過越の食事の準備（実際の日付：ニサンの月の13日木曜日／日没後は14日）

## マタイによる福音書 26：17～19

除酵祭の第一日（当時は、過越祭の準備日、つまり過越の小羊を屠る 14 日を「除酵祭」と呼ぶことがあった=ニサンの月の 14 日）に、弟子たち（→ルカ 22:8=ペトロとヨハネ）がイエスのところに来て、「どこに、過越の食事をなさる用意をいたしましょうか」と言った。18 イエスは言われた。「都のあの人（→ヨハネ・マルコの母マリアの家=使徒言行録 12:12、25、15:39／2~4 世紀のキリスト教伝承[教父文書など]）のところに行ってこう言いなさい。『先生が、「わたしの時が近づいた。お宅で弟子たちと一緒に過越の食事をする」と言っています。』」19 弟子たちは、イエスに命じられたとおりにして、過越の食事を準備した。

㊟過越祭(ニサンの月の14日の日没～15日の日没)→除酵祭(15日の日没～21日の日没)

## マルコによる福音書 14：12～16

除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊を屠る日、弟子たちがイエスに、「過越の食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と言った。13 そこで、イエスは次のように言って、二人の弟子を使いに出された。「都へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会う。その人について行きなさい。14 その人が入って行く家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をするわたしの部屋はどこか」と言っています。』15 すると、席が整って用意のできた二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために準備をしておきなさい。」16 弟子たち（→ルカ 22：8=ペトロとヨハネ）は出かけて都に行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。

## 書 ルカによる福音書 22：7～13

過越の小羊を屠るべき除酵祭の日が来た。8 イエスはペトロとヨハネとを使いに出そうとして、「行って過越の食事ができるように準備しなさい」と言われた。9 二人が、「どこに用意いたしましょうか」と言うと、10 イエスは言われた。「都に入ると、水がめを運んでいる男に出会う。その人が入る家までついて行き、11 家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をする部屋はどこか」とあなたに言っています。』12 すると、席の整った二階の広間を見せてくれるから、そこに準備をしておきなさい。」13 二人が行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。

### 【確認】主の言葉は必ず成る

① 主の言葉に従うとき、必要なものはすべて備えられる。

弟子たちには何も計画がありませんでした。しかし、イエスにはありました。私たちが人生の次の一步を見えずに悩むとき、主はすでにその先を見通し、備えておられます。信仰とは、“見えるから従う”的ではなく、“従うと見えてくる”歩みです。

② 主は私たちのために「場所」も備えてくださる。

「わたしの時が近づいた。あなたの家で過越の食事をする。」イエスはこの言葉によって、神の救いの計画が動き出す「定められた時」を示されました。神は、あなたが必要とする“広間”を備えられます。それは物理的な場所だけではありません。そこは、心が落ち着く場所、祈りの部屋、癒しを受ける時間

です。神様は、あなたの人生の重要な瞬間のために、静かに場所を整えておられます。

### ③ すべては「そのとおりだった」－主の言葉は必ず成就する。

三つの福音書はそろってこう述べています。「弟子たちが行ってみると、イエスが言われたとおりだった。」聖書の一つ一つの約束は、時が来ると必ず実現します。主の導きは、私たちの予想を越え、“最善の形”で成し遂げられます。過越の準備の場面は、単なる儀式の用意の場面ではありません。それは、イエス・キリストが十字架へ向かわれる直前の、神の計画が静かに動き始める瞬間でした。残念なことに、弟子たちは、その計画を完全には理解していませんでしたが、主の言葉に従うことで、神の御業の只中に置かれたのでした。

## ◆最後の晚餐・裏切りの予告

### ■マタイによる福音書 26：20～25

(ニサンの月の 14 日) 夕方になると、イエスは十二人と一緒に**食事の席**に着かれた。21 一同が食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」22 弟子たちは非常に心を痛めて、「主よ、まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。23 イエスはお答えになった。「わたしと一緒に手で鉢に食べ物を浸した者が、わたしを裏切る。」24 人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかつた方が、その者のためによかつた。」25 イエスを裏切ろうとしていたユダが口をはさんで、「先生、まさかわたしのことでは」と言うと、イエスは言われた。「それはあなたの言ったことだ。」(→あなたが今言ったことがその答えだ。)

### ■マタイによる福音書 26：26～29

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」27 また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。」28 これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。29 言っておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい(→この地上での過越の食事は、これが最後だ。)

### ■マルコによる福音書 14：17～21

夕方になると、イエスは十二人と一緒にそこへ行かれた。18 一同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている。」19 弟子たちは心を痛めて、「まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。20 イエスは言われた。「十二人のうちの一人で、わたしと一緒に鉢に食べ物を浸している者がそれだ。」21 人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかつた方が、その者のためによかつた。」

22 一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」23 また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。24 そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」25 はっきり言っておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」

### ■ルカによる福音書 22：14～23

時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。15 イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。」16 言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」17 そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。」18 言っておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」19 それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」20 食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。」21 しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を食卓に置いている。22 人の子は、定められたとおり去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。」23 そこで使徒たちは、自分たちのうち、いったいだれが、そんなことをしようとしているのかと互いに議論をし始めた。

### ■ヨハネによる福音書 13：21～30

イエスはこう話し終えると、心を騒がせ、断言された。「はっきり言っておく。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」22 弟子たちは、だれについて言っておられるのか察しかねて、顔を見合せた。23 イエスのすぐ隣には、弟子たちの一人で、イエスの愛しておられた者が食事の席に着いていた。

24 シモン・ペトロはこの弟子に、だれについて言っておられるのかと尋ねるように合図した。  
25 その弟子が、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、それはだれのことですか」と言うと、  
26 イエスは、「わたしがパン切れを浸して与えるのがその人だ」と答えられた。それから、パン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。27 ユダがパン切れを受け取ると、サタンが彼の中に入った。そこでイエスは、「しようとしていることを、今すぐ、しなさい」と彼に言わされた。28 座に着いていた者はだれも、なぜユダにこう言わされたのか分からなかった。29 ある者は、ユダが金入れを預かっていたので、「祭りに必要な物を買いなさい」とか、貧しい人に何か施すようにと、イエスが言われたのだと思っていた。30 ユダはパン切れを受け取ると、すぐ出て行った。夜であった。

### ◆弟子たちへの教え ヨハネ 13:31～17:26

イエスはユダが去ったあと、神の栄光が現れる時が来たことを弟子たちに告げられました。自らが神の世界から来たこと、そして父なる神のもとに戻る使命を果たすために、弟子たちに大切な教えを残されます。「互いに愛し合いなさい。愛によってこそ、すべての人はあなたがたがわたしの弟子であることを知る」と、愛の力とその意味を伝えられました。

イエスはまた、弟子たちを父なる神に委ね、自らの使命が成し遂げられること、弟子たちが守られ、真理に導かれるることを心から祈られます。その祈りは、目の前の弟子たちだけでなく、未来に信じるすべての人々のためのものであり、神の愛が弟子たちを通して世界に広がることを願うものでした。

イエスの言葉と祈りは、私たちにも互いに愛し合い、神と共に歩む道の大切さを教えてくれています。

### ▶ゲツセマネ（木曜深夜～金曜未明）

#### ◆ゲツセマネにて

■マタイによる福音書 26:36～38

それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという所に来て、「わたしが向こうへ行って祈っている間、ここに座っていなさい」と言わされた。37 ペトロおよびゼベダイの子二人を伴われたが、そのとき、悲しみもだえ始められた。38 そして、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」

■マルコによる福音書 14:32～34

一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っていなさい」と言わされた。33 そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもだえ始め、34 彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」

■ルカによる福音書 22:39～40

イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かれると、弟子たちも従った。40 いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、「誘惑に陥らないように祈りなさい」と言わされた。

■ヨハネによる福音書 18:1

こう話し終えると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロンの谷の向こうへ出て行かれた。そこには園があり、イエスは弟子たちとその中に入られた。

#### ◆イエスのゲツセマネでの祈り－苦悩と従順の時

■マタイによる福音書 26:39～46

少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」

40 それから、弟子たちのところへ戻って御覧になると、彼らは眠っていたので、ペトロに言われた。「あなたがた（→ペトロ、ヤコブ、ヨハネ）はこのように、わずか一時もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。41 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」42 更に、二度目に向こうへ行って祈られた。「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように。」43 再び戻って御覧になると、弟子たちは睡っていた。ひどく眠かったのである。44 そこで、彼らを離れ、また向こうへ行って、三度目も同じ言葉で祈られた。45 それから、弟子たちのところに戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。46 立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

■マルコによる福音書 14:35～42

少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、

36 こう言われた。「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」

37 それから、戻って御覧になると、弟子たちは眠っていたので、ペトロに言われた。「シモン、眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかつたのか。38 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈つてなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」39 更に、向こうへ行って、同じ言葉で祈られた。40 再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠かったのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかつた。41 イエスは三度目に戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい。時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。42 立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

■ルカによる福音書 22：41～46

そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。42「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」〔43 すると、天使が天から現れて、イエスを力づけた。44 イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。〕45 イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。46 イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈つてなさい。」

◆裏切りと逮捕

■マタイによる福音書 26：47～56

イエスがまだ話しておられると、十二人の一人であるユダがやって來た。祭司長たちや民の長老たちの遣わした大勢の群衆も、剣や棒を持って一緒に來た。48 イエスを裏切ろうとしていたユダは、「わたしが接吻するのが、その人だ。それを捕まえろ」と、前もって合図を決めていた。49 ユダはすぐイエスに近寄り、「先生、こんばんは」と言って接吻した。50 イエスは、「友よ、しようとしていることをするがよい」と言われた。すると人々は進み寄り、イエスに手をかけて捕らえた。51 そのとき、イエスと一緒にいた者の一人（シモン・ペトロ→ヨハネによる福音書 18：10）が、手を伸ばして剣を抜き、大祭司の手下に打ちかかって、片方の耳を切り落とした。

52 そこで、イエスは言われた。「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。53 わたしが父にお願いできないとでも思うのか。お願いすれば、父は十二軍團以上の天使を今すぐ送つてくださるであろう。54 しかしそれでは、必ずこうなると書かれている聖書の言葉がどうして実現されよう。」

55 またそのとき、群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って捕らえに來たのか。わたしは毎日、神殿の境内に座つて教えていたのに、あなたたちはわたしを捕らえなかつた。56 このすべてのことが起つたのは、預言者たちの書いたことが実現するためである。」このとき、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。

■マルコによる福音書 14：43～52

さて、イエスがまだ話しておられると、十二人の一人であるユダが進み寄つて來た。祭司長、律法学者、長老たちの遣わした群衆も、剣や棒を持って一緒に來た。44 イエスを裏切ろうとしていたユダは、「わたしのが接吻するのが、その人だ。捕まえて、逃がさないように連れて行け」と、前もって合図を決めていた。45 ユダはやって來るとすぐに、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。46 人々は、イエスに手をかけて捕らえた。47 居合わせた人々のうちのある者が、剣を抜いて大祭司の手下に打つてかかり、片方の耳を切り落とした。48 そこで、イエスは彼らに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って捕らえに來たのか。49 わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいて教えていたのに、あなたたちはわたしを捕らえなかつた。しかし、これは聖書の言葉が実現するためである。」50 弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。51 一人の若者（→福音書を書いたマルコ本人？）が、素肌に亜麻布をまとつてイエスについて來ていた。人々が捕らえようとすると、52 亜麻布を捨てて裸で逃げてしまった。

■ルカによる福音書 22：47～53

イエスがまだ話しておられると、群衆が現れ、十二人の一人でユダという者が先頭に立つて、イエスに接吻をしようと近づいた。48 イエスは、「ユダ、あなたは接吻で人の子を裏切るのか」と言われた。

49 イエスの周りにいた人々は事の成り行きを見て取り、「主よ、剣で切りつけましょうか」と言った。

50 そのうちのある者が大祭司の手下に打ちかかつて、その右の耳を切り落とした。51 そこでイエスは、「やめなさい。もうそれでよい」と言い、その耳に触れていやされた。52 それからイエスは、押し寄せて來た祭司長、神殿守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやつて來たのか。53 わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかつた。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るつている。」

## ヨハネによる福音書 18：2～13

イエスを裏切ろうとしていたユダも、その場所を知っていた。イエスは、弟子たちと共に度々ここに集まっておられたからである。3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやファリサイ派の人々の遣わした下役たちを引き連れて、そこにやって來た。松明やともし火や武器を手にしていた。4 イエスは御自分の身に起こることを何もかも知つておられ、進み出て、「だれを捜しているのか」と言われた。

5 彼らが「ナザレのイエスだ」と答えると、イエスは「わたしである」と言わされた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒にいた。6 イエスが「わたしである」と言わされたとき、彼らは後ずさりして、地に倒れた。7 そこで、イエスが「だれを捜しているのか」と重ねてお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスだ」と言った。8 すると、イエスは言わされた。「『わたしである』と言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人々は去らせなさい。」9 それは、「あなたが与えてくださった人を、わたしは一人も失いませんでした」と言わされたイエスの言葉が実現するためであった。10 シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とした。手下の名はマルコスであった。11 イエスはペトロに言わされた。「剣をさやに納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」12 そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、13 まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアファのしゅうとだったからである。

イエスの十字架と過越祭、除酵祭等 紹介ハネ13:1～30他←ユダヤ(バビロニア)暦を採用／参考:マタイ26:17～25、マルコ14:12～21、ルカ22:7～14～捕囚前の暦を採用

## ► 裁判（金曜日未明～朝）

## ②大祭司アンナスの家にて

ヨハネによる福音書 18:12~14 (再 18:12, 13)

そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、13 まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアファのしゅうとだったからである。14 一人の人間が民の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言したのは、このカイアファであった。

## ヨハネによる福音書 18：19～24

大祭司はイエスに弟子のことや教えについて尋ねた。20 イエスは答えられた。「わたしは、世に向かって公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集まる会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。21 なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話を知っている。」22 イエスがこう言わると、そばにいた下役の一人が、「大祭司に向かって、そんな返事のしかたがあるか」と言って、イエスを平手で打った。

23 イエスは答えられた。「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか。」24 アンナスは、イエスを縛ったまま、大祭司カイアファのもとに送った。

## ②大祭司カイアファのもとでの審問

## ■マタイによる福音書 26:57~68

人々はイエスを捕らえると、大祭司カイアファのところへ連れて行った。そこには、律法学者たちや長老たちが集まっていた（→深夜にもかかわらず、祭司長・律法学者・長老たちは既に集められ、この夜のうちに裁きを始める準備が整えられていた）。58 ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで行き、事の成り行きを見ようと、中に入って、下役たちと一緒に座っていた（→一方、弟子た

ちは散り散りになったが、ペトロだけは遠くからイエスに付き従い、大祭司の家までたどり着いた。ペトロはしばらく外で様子をうかがい、やがて中庭へ入り、そこに集まっていた下役たちが焚き火を囲んで座る輪の中に加わり、震える思いでその光景を見守った)。59 さて、祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にしようとしてイエスにとって不利な偽証を求めた。60 偽証人は何人も現れたが、証拠は得られなかつた。最後に二人の者が来て、61「この男は、『神の神殿を打ち倒し、三日あれば建てることができる』と言いました」と告げた。62 そこで、大祭司は立ち上がり、イエスに言った。「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」63 イエスは黙り続けておられた。大祭司（カイアファ）は言った。「生ける神に誓つて我々に答えよ。お前は神の子、メシアなのか。」64 イエスは言われた。「それは、あなたが言ったことです。しかし、わたしは言っておく。あなたたちはやがて、／人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に乗つて来るのを見る。」65 そこで、大祭司は服を引き裂きながら言った。「神を冒瀆した。これでもまだ証人が必要だろうか。諸君は今、冒瀆の言葉を聞いた。66 どう思うか。」人々は、「死刑にすべきだ」と答えた。67 そして、イエスの顔に唾を吐きかけ、こぶしで殴り、ある者は平手で打ちながら、68「メシア、お前を殴つたのはだれか。言い当ててみろ」と言った。(審問は夜通し続けられ、イエスは辱めの中に置かれ続けた。)

#### ■マルコによる福音書 14：53～65

人々は、イエスを大祭司のところへ連れて行った。祭司長、長老、律法学者たちが皆、集まつて來た。54 ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで入つて、下役たちと一緒に座つて、火にあたつていた。55 祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが、得られなかつた。56 多くの者がイエスに不利な偽証をしたが、その証言は食い違つてゐたからである。57 すると、数人の者が立ち上がって、イエスに不利な偽証をした。58「この男が、『わたしは人間の手で造つたこの神殿を打ち倒し、三日あれば、手で造らない別の神殿を建ててみせる』と言うのを、わたしたちは聞きました。」59 しかし、この場合も、彼らの証言は食い違つた。60 そこで、大祭司は立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」61 しかし、イエスは黙り続け何もお答えにならなかつた。そこで、重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。62 イエスは言われた。「そうです。あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に囲まれて来るのを見る。」63 大祭司は、衣を引き裂きながら言った。「これでもまだ証人が必要だろうか。64 諸君は冒瀆の言葉を聞いた。どう考えるか。」一同は、死刑にすべきだと決議した。65 それから、ある者はイエスに唾を吐きかけ、目隠しをしてこぶしで殴りつけ、「言い当ててみろ」と言い始めた。また、下役たちは、イエスを平手で打つた。

#### ■ルカによる福音書 22：54～55

人々はイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入つた。ペトロは遠く離れて従つた。55 人々が屋敷の中庭の中央に火をたいて、一緒に座つてゐたので、ペトロも中に混じつて腰を下ろした。

#### ■ルカによる福音書 22：63～71

さて、見張りをしていた者たちは、イエスを侮辱したり殴つたりした。64 そして目隠しをして、「お前を殴つたのはだれか。言い当ててみろ」と尋ねた。65 そのほか、さまざまなことを言ってイエスをののしった。66 夜が明けると、(改めて)民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが(正式に)集まつた。そして、イエスを最高法院に連れ出して、67「お前がメシアなら、そうだと言うがよい」と言った。イエスは言われた。「わたしが言つても、あなたたちは決して信じないだろう。68 わたしが尋ねても、決して答えないだろう。69 しかし、今から後、人の子は全能の神の右に座る。」70 そこで皆の者が、「では、お前は神の子か」と言うと、イエスは言われた。「わたしがそうだとは、あなたたちは言つてゐる。」71 人々は、「これでもまだ証言が必要だろうか。我々は本人の口から聞いたのだ」と言った。

#### ◆ペトロ、三度の否認

#### ■マタイによる福音書 26：69～75

ペトロは外にいて中庭に座つてゐた。そこへ一人の女中が近寄つて来て、「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」と言った。70 ペトロは皆の前でそれを打ち消して、「何のことを言つてゐるのか、わたしには分からぬ」と言った。71 ペトロが門の方に行くと、ほかの女中が彼に目を留め、居合わせた人々に、「この人はナザレのイエスと一緒にいました」と言った。72 そこで、ペトロは再び、「そんな人は知らない」と誓つて打ち消した。73 しばらくして、そこにいた人々が近寄つて来てペトロに言った。「確かに、お前もあの連中の仲間だ。言葉遣いでそれが分かる。」74 そのとき、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「そんな人は知らない」と誓つて始めた。するとすぐ、鶏が鳴いた。75 ペトロは、「鶏が鳴く前に、あなたたちは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われたイエスの言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。

#### ■マルコによる福音書 14：66～72

ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、67 ペトロが火にあたつてゐるのを目

にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」<sup>68</sup> しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何のことを言っているのか、わたしには分からぬし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出て行くと、鶏が鳴いた。<sup>69</sup> 女中はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いだした。<sup>70</sup> ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」

<sup>71</sup> すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。<sup>72</sup> するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。

#### ■ルカによる福音書 22:56~62

するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座っているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒にいました」と言った。<sup>57</sup> しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしはあの人を知らない」と言った。<sup>58</sup> 少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言うと、ペトロは、「いや、そうではない」と言った。<sup>59</sup> 一時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人も一緒にいた。ガリラヤの者だから」と言い張った。<sup>60</sup> だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からぬ」と言った。まだこう言い終わらぬうちに、突然鶏が鳴いた。<sup>61</sup> 主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。<sup>62</sup> そして外に出て、激しく泣いた。

#### ■ヨハネによる福音書 18:15~18

シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに従った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の屋敷の中庭に入ったが、<sup>16</sup> ペトロは門の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中に入れた。<sup>17</sup> 門番の女中はペトロに言った。「あなたも、あの人弟子の一人ではありませんか。」ペトロは、「違う」と言った。<sup>18</sup> 僕や下役たちは、寒かったので炭火をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロも彼らと一緒に立って、火にあたっていた。

#### ■ヨハネによる福音書 18:25~27

シモン・ペトロは立って火にあたっていた。人々が、「お前もあの男の弟子の一人ではないのか」と言うと、ペトロは打ち消して、「違う」と言った。<sup>26</sup> 大祭司の僕の一人で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者が言った。「園での男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。」<sup>27</sup> ペトロは、再び打ち消した。するとすぐ、鶏が鳴いた。

### ◆ピラトの前へ

#### ■マタイによる福音書 27:1~2

夜が明けると、祭司長たちと民の長者たち一同は、イエスを殺そうと相談した。<sup>2</sup> そして、イエスを縛って引いて行き、総督ピラトに渡した。

#### ■マタイによる福音書 27:11~14

さて、イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「**それは、あなたが言っていることです**」と言われた。<sup>12</sup> 祭司長たちや長者たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかつた。<sup>13</sup> するとピラトは、「**あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞こえないのか**」と言つた。<sup>14</sup> それでも、どんな訴えにもお答えにならなかつたので、総督は非常に不思議に思つた。

#### ■マルコによる福音書 15:1~5

夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。<sup>2</sup> ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「**それは、あなたが言っていることです**」と答えられた。<sup>3</sup> そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。<sup>4</sup> ピラトが再び尋問した。「**何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。**」<sup>5</sup> しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかつたので、ピラトは不思議に思つた。

#### ■ルカによる福音書 23:1~7

そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。<sup>2</sup> そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」<sup>3</sup> そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「**それは、あなたが言っていることです**」とお答えになつた。<sup>4</sup> ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。<sup>5</sup> しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張つた。<sup>6</sup> これを聞いたピラトは、この人は

ガリラヤ人かと尋ね、7 ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。

#### ヨハネによる福音書 18：28～38

人々は、イエスをカイアファのところから総督官邸に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸に入らなかった。汚れないで過越の食事をするためである。29 そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。30 彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかつたら、あなたに引き渡しはしなかつたでしょう」と言った。31 ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。32 それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。33 そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。34 イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」35 ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」36 イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦つたことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」37 そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」38 ピラトは言った。「真理とは何か。」

#### ヘロデの前へ

#### ルカによる福音書 23：8～12

彼（→ヘロデ）はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしらしを行うのを見たいと望んでいたからである。9 それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。10 祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。11 ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。12 この日、ヘロデとピラトは仲がよくなつた。それまでは互いに敵対していたのである。

#### 再びピラトの前へ（死刑判決）

#### マタイによる福音書 27：15～26

ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することにしていた。16 そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。17 ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか。それともメシアといわれるイエスか。」18（ピラトは）人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。19 一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」20 しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。21 そこで、総督が、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、「バラバを」と言った。22 ピラトが、「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、皆は、「十字架につけろ」と言った。23 ピラトは、「いったいどんな悪事を働いたというのか」と言ったが、群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び続けた。24 ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなのを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題だ。」25 民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」26 そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架にかけるために引き渡した。

#### マルコによる福音書 15：6～15

ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願い出る囚人を一人釈放していた。7 さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。8 群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。9 そこで、ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。10 祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。

11 祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。12 そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。13 群衆はまた叫んだ。「十字架につけろ。」14 ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというのか。」群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び立てた。15 ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架にかけるために引き渡した。

### ■ルカによる福音書 23：13～25

ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、14 言った。「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。15 ヘロデと/orも同じであった。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるようなことは何もしていない。16 だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」17<底本に節が欠けている個所の異本による訳文>祭りの度ごとに、ピラトは、囚人を一人彼らに釈放してやらなければならなかった。18 しかし、人々は一斉に、「**その男を殺せ。バラバを釈放しろ**」と叫んだ。19 このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。20 ピラトはイエスを釈放しようと思って、改めて呼びかけた。21 しかし人々は、「**十字架につけろ、十字架につけろ**」と叫び続けた。22 ピラトは三度目に言った。「**いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。**」23 ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。24 そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。25 そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。

### ■ヨハネによる福音書 18：38～40（再 18：38）

ピラトは言った。「**真理とは何か。**」ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。ところで、過越祭にはだれか一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか。」40 すると、彼らは、「**その男ではない。バラバを**」と大声で言い返した。バラバは強盗であった。

### ■ヨハネによる福音書 19：1～16

そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。2 兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、3 そばにやって来ては、「**ユダヤ人の王、万歳**」と言って、平手で打った。4 ピラトはまた出て来て、言った。「見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。」5 イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、この男だ」と言った。6 祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、「**十字架につけろ。十字架につけろ**」と叫んだ。ピラトは言った。「あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いだせない。」7 ユダヤ人たちは答えた。「**わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。**」8 ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、9 再び総督官邸の中に入つて、「お前はどこから来たのか」とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかつた。10 そこで、ピラトは言った。「わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。」11 イエスは答えられた。「**神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。**」12 そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」13 ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。14 それは★過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うと、15 彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につけろ。」ピラトが、「**あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか**」と言うと、祭司長たちは、「**わたしたちには、皇帝（→ローマ皇帝カエサル、Caesar）のほかに王はありません**」と答えた。16 そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。

### ►十字架（午前9時～午後3時）

#### ◆兵士の嘲りと茨の冠

### ■マタイによる福音書 27：27～31

それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。28 そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套を着せ、29 茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、「**ユダヤ人の王、万歳**」と言って、侮辱した。30 また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。31 このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。

### ■マルコによる福音書 15：16～20

兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。17 そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、18 「**ユダヤ人の王、万歳**」と言って敬礼し始め

た。19 また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拝んだりした。20 このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

#### ■ヨハネによる福音書 19：1～3（再 19：1～3）

そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。2 兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、3 そばにやって来では、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、平手で打った。

### ⌚十字架への行進

#### ■マタイによる福音書 27：22

兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。

#### ■マルコによる福音書 15：21～32

そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。

#### ■ルカによる福音書 23：26～32

人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。27 民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。28 イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。29 人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。30 そのとき、人々は山に向かっては、／『我々の上に崩れ落ちてくれ』と言い、／丘に向かっては、／『我々を覆ってくれ』と言い始める。31『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいったいどうなるのだろうか。」32 ほかにも、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行つた。

#### ■ヨハネによる福音書 19：16～17（再 19：16）

そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。こうして、彼らはイエスを引き取った。17 イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。

### ⌚十字架につけられる（午前9時）

#### ■マタイによる福音書 27：33～38

そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、34 苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかつた。35 彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、36 そこに座って見張りをしていた。37 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。38 折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。

#### ■マルコによる福音書 15：22～28（再 15：22～28）

そして、イエスをゴルゴタという所——その意味は「されこうべの場所」——に連れて行った。23 没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかつた。24 それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、／その服を分け合つた、／だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。25 イエスを十字架につけたのは、★午前九時であった。26 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあつた。

27 また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。28 こうして、「その人は犯罪人の一人に數えられた」という聖書の言葉が実現した。

#### ■ルカによる福音書 23：33～34

「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。34 [そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」] 人々はくじを引いて、イエスの服を分け合つた。

#### ■ヨハネによる福音書 19：18～24

そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあつた。20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かつたので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は『ユダヤ人の王』と自称した』と書いてください」と言った。22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。

23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。24 そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、／「彼らはわたしの服を分け合い、／わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。

### ◆羨望・嘲弄

#### ■マタイによる福音書 27:39~44

そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、40 言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」41 同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。42「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう(→He saved others; himself he cannot save. If he be the King of Israel, let him now come down from the cross, and we will believe him. 彼は他者を救ったが、自分自身を救うことはできない。もし彼がイスラエルの王であるなら、今すぐ十字架から降りて来なさい。そうすれば私たちは彼を信じよう)。43 神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」44 一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

#### ■マルコによる福音書 15:29~32 (再 15:29~32)

そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、30 十字架から降りて自分を救ってみろ。」31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にになって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。32 メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

#### ■ルカによる福音書 23:35~38

民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」36 兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、37 言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」38 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

### ◆悪人の一人が悔い改める (ルカのみの記述)

#### ■ルカによる福音書 23:39~43

十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」42 そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。43 するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

#### ルカによる福音書 23:43 の正しい解釈

誤訳  
新共同訳：するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。  
口語訳：イエスは言われた、「よく言っておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。  
新改訳：イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」  
リビング・バイブル：イエスはお答えになりました。「あなたは今日、わたしといっしょにパラダイス（天国）に入ります。」

KJB: And Jesus said unto him, Verily I say unto thee, To day shalt thou be with me in paradise.  
καὶ εἶπεν αὐτῷ ὁ Ἰησοῦς, Ἐμήν λέγω σοι σήμερον μετ' ἐμοῦ ἔσῃ ἐν τῷ παραδείσῳ

正しい解釈(誤)は、以下の通りである。

イエスは、彼に言われた。今日あなたにはっきり言っておく(まことに、今日あなたに言っておく)。

「あなたは(再臨の時)わたしと共に楽園にいる」。

→イエスは「今日、この十字架の苦しみの中で」救いの約束を与えられたのであって、実際に楽園に入るのはキリストの再臨による復活の時であり、「今日」楽園に入るのではない。

## ⌚マリアと弟子への言葉（ヨハネのみ記述）

書 ヨハネによる福音書 19：25～27

イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言わされた。27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

## ⌚正午の暗黒（12時～3時）

書 マタイによる福音書 27：45

さて、★昼の十二時に、全地は暗くなり、それが★三時まで続いた。

書 マルコによる福音書 15：33

★昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが★三時まで続いた。

書 ルカによる福音書 23：44～45

既に★昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが★三時まで続いた。

45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。

## ⌚イエスの七つの言葉

書 ルカによる福音書 23：34（再）

〔そのとき、イエスは言われた。①「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。

書 ルカによる福音書 23：43（再）

するとイエスは、②「はつきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

書 ヨハネによる福音書 19：26～27（再）

イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、③「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言わされた。27 それから弟子に言われた。③「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

書 マタイによる福音書 27：46

三時ごろ、イエスは大声で呼ばれた。④「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、④「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

書 マルコによる福音書 15：34

三時にイエスは大声で呼ばれた。④「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、④「わが神、わが神、なぜわたくしをお見捨てになったのですか」という意味である。

書 ヨハネによる福音書 19：28

この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、⑤「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。

書 ヨハネによる福音書 19：30

イエスは、このぶどう酒を受けると、⑥「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

書 ルカによる福音書 23：46

イエスは大声で呼ばれた。⑦「父よ、わたしの靈を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。

## ⌚イエスの死（午後3時）

書 マタイによる福音書 27：50～56

しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。51 そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起り、岩が裂け、52 墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。53 そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。

54 百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。55 またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。56 その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。

書 マルコによる福音書 15：37～41

しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。38 すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。39 百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。40 また、婦人たちも遠くから見守って

いた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。41 この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従って来て世話をしていた人々である。なおそのほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た婦人たちが大勢いた。

#### ■ルカによる福音書 23：46～49（再 23：46）

イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの靈を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、これらのことを見ていた。

#### ■ヨハネによる福音書 19：30～37（再 19：30）

イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。31 その日は★準備の日で、翌日は★特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。32 そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。33 イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。34 しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。35 それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。36 これらのことが起こったのは、「その骨は一つも碎かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。37 また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。

### ►埋葬（金曜夕方）

#### ◆埋葬の準備

##### ■マタイによる福音書 27：57～61

夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。58 この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくれるようになると願い出た。そこでピラトは、渡すようにと命じた。59 ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、60 岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。61 マグダラのマリアともう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

##### ■マルコによる福音書 15：42～47

既に夕方になった。その日は★準備の日、すなわち★安息日の前日であったので、43 アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようになると願い出た。この人も神の国を待ち望んでいたのである。44 ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、既に死んだかどうかを尋ねた。45 そして、百人隊長に確かめたうえ、遺体をヨセフに下げ渡した。46 ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘って作った墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。47 マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

##### ■ルカによる福音書 23：50～56

さて、ヨセフという議員がいたが、善良な正しい人で、51 同僚の決議や行動には同意しなかった。ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいたのである。52 この人がピラトのところに行き、イエスの遺体を渡してくれるようになると願い出た。53 遺体を十字架から降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られたことのない、岩に掘った墓の中に納めた。54 その日は★準備の日であり、★安息日が始まるとしていた。55 イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様とを見届け、56 家に帰って、香料と香油を準備した。

##### ヨハネによる福音書 19：38～42

その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。39 そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。40 彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。41 イエスが十字架につけられた所には園があり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。42 その日はユダヤ人の★準備の日であり、この墓が近かったので、そこにイエスを納めた。

##### ■ヨハネによる福音書 19：38～42

その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身の

ヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。39 そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。40 彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。41 イエスが十字架につけられた所には園があり、そこには、だれもまだ葬られたことのない新しい墓があった。42 その日はユダヤ人の準備の日であり、この墓が近かつたので、そこにイエスを納めた。

### ▶復活の朝（日曜日）

#### ⌚女性たちが墓に行く

##### ■マタイによる福音書 28:1

さて、安息日が終わって、★週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。

##### ■マルコによる福音書 16:1~4

安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。2 そして、★週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。3 彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。4 ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。

##### ■ルカによる福音書 24:1~3

そして、★週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。2 見ると、石が墓のわきに転がしており、3 中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。

##### ■ヨハネによる福音書 20:1

★週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。

#### ⌚空っぽの墓

##### ■マタイによる福音書 28:2~10

すると、大きな地震が起こった。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座ったのである。3 その姿は稻妻のように輝き、衣は雪のように白かった。4 番兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになつた。5 天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、6 あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさつたのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。7 それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかる。』確かに、あなたがたに伝えました。」8 婦人たちには、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走つて行った。9 すると、イエスが行く手に立つていて、「おはよう」と言わされたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。10 イエスは言わされた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

##### ■マルコによる福音書 16:5~8

墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちにはひどく驚いた。6 若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさつて、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。7 さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われていたとおり、そこでお目にかかる。』」8 婦人たちが墓を出て逃げ去つた。震え上がり、正気を失つて走つた。そして、だれにも何も言わなかつた。恐ろしかつたからである。

##### ■ルカによる福音書 24:4~8

そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。5 婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。6 あの方は、ここにはおられない。復活なさつたのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになつたことを思い出しなさい。7 人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになつてゐる、と言わされたではないか。」

8 そこで、婦人たちがイエスの言葉を思い出した。9 そして、墓から帰つて、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。10 それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちがこれらのことを使徒たちに話したが、11 使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかつた。12 しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、亜麻布しかなかつたので、この出来事に驚きながら家に帰つた。

## ■ヨハネによる福音書 20:2~10

そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」

3 そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。5 身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。6 続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。7 イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。8 それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。

9 イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。10 それから、この弟子たちは家に帰って行った。

## ▶復活の顕現

### ⌚マグダラのマリアへの顕現

## ■マルコによる福音書 16:9~11

〔イエスは週の初めの日の朝早く、復活して、まずマグダラのマリアに御自身を現された。このマリアは、以前イエスに七つの悪霊を追い出していた婦人である。10 マリアは、イエスと一緒にいた人々が泣き悲しんでいるところへ行って、このことを知らせた。11 しかし彼らは、イエスが生きておられること、そしてマリアがそのイエスを見たことを聞いても、信じなかった。〕

## ■ヨハネによる福音書 20:11~18

マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、12 イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。

13 天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」14 こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。15 イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去つたのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」16 イエスが、「マリア」と言わると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。

17 イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから※1。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」

18 マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは（復活した）主を見ました」と告げ、また、主から言われたこと（→わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る）を伝えた。

※1：イエスが、驚きのあまり気が動転し、平常心ではないマリアにこのような発言した理由は、不安の中にある弟子たちに復活したことをいち早く伝えてほしかったから、（イエス自身がまだ父のもとへ上っておらず、天での大祭司としての働き一復活の受け入れーが完了していなかったことから）と思われます。

### ⌚兵士たちの報告

## ■マタイによる福音書 28:11~15

婦人たちが行き着かないうちに、数人の番兵は都に帰り、この出来事すべて祭司長たちに報告した。

12 そこで、祭司長たちは長老たちと集まって相談し、兵士たちに多額の金を与えて、13 言った。「『弟子たちが夜中にやって来て、我々の寝ている間に死体を盗んで行った』と言いなさい。14 もしこのことが総督の耳に入っても、うまく総督を説得して、あなたがたには心配をかけないようにしよう。」15 兵士たちは金を受け取って、教えられたとおりにした。この話は、今日に至るまでユダヤ人の間に広まっている。

### ⌚エマオの途上の2人の弟子

## ■ルカによる福音書 24:13~35

ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、14 この一切の出来事について話し合っていた。15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数

日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちには朝早く墓へ行きましたが、23 遺体を見つけずに戻ってきました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。24 仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。29 二人が、「一緒に泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなってしまった。32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださいたとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。33 そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、34 本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。35 二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

#### ■マルコによる福音書 16：12～13

その後、彼らのうちの二人が田舎の方へ歩いて行く途中、イエスが別の姿で御自身を現された。13 この二人も行って残りの人たちに知らせたが、彼らは二人の言うことも信じなかった。

#### ◆エルサレムでの顕現

#### ■ルカによる福音書 24：36～49

こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。37 彼らは恐れおののき、亡靈を見ているのだと思った。38 そこで、イエスは言われた。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。39 わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡靈には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。」40 こう言って、イエスは手と足をお見せになった。41 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、43 イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。44 イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」45 そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。47 また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、48 あなたがたはこれらのことの証人となる。49 わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっています。」

#### ■ヨハネによる福音書 20：19～23

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。20 そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。21 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」22 そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖靈を受けなさい。23 だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

#### ■マルコによる福音書 16：14～15

その後、十一人が食事をしているとき、イエスが現れ、その不信仰とかたくなな心をおとがめになった。復活されたイエスを見た人々の言うことを、信じなかったからである。15 それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。

#### ◆トマスへの顕現

#### ■ヨハネによる福音書 20：24～29

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

25 そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」26 さて八日の後、弟子たちはまた家の中において、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」28 トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。29 イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

### ⌚ガリラヤ湖での顯現

#### ヨハネによる福音書 21:1~23

その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。2 シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。3 シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。4 既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。5 イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。6 イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかつた。7 イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込んだ。8 ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って來た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかつたのである。9 さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあつた。その上に魚がのせてあり、パンもあった。10 イエスが、「今どった魚を何匹か持って来なさい」と言われた。11 シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかつた。12 イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかつた。主であることを知っていたからである。13 イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。14 イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。15 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。16 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。17 三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなつた。そして言った。「主よ、あなたは何をかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知つておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。18 はつきり言っておく。あなたは、若いときは、自分で帶を締めて、行きたいところへ行つてゐた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帶を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」19 ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。20 ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて來るのが見えた。この弟子は、あの夕食のとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏切るのはだれですか」と言った人である。21 ペトロは彼を見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言った。

22 イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」23 それで、この弟子は死なないといううわさが兄弟たちの間に広まつた。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたのではない。ただ、「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか」と言われたのである。

### ⌚ガリラヤの山での大宣教命令

#### マタイによる福音書 28:16~20

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておられた山に登つた。17 そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。18 イエスは、近寄つて来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教なさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

## ②昇天

### マルコによる福音書 16:19~20

主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。20 一方、弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。】

結び 二 [婦人たちは、命じられたことをすべてペトロとその仲間たちに手短に伝えた。その後、イエス御自身も、東から西まで、彼らを通して、永遠の救いに関する聖なる朽ちることのない福音を広められた。アーメン。]

### ルカによる福音書 24:50~53

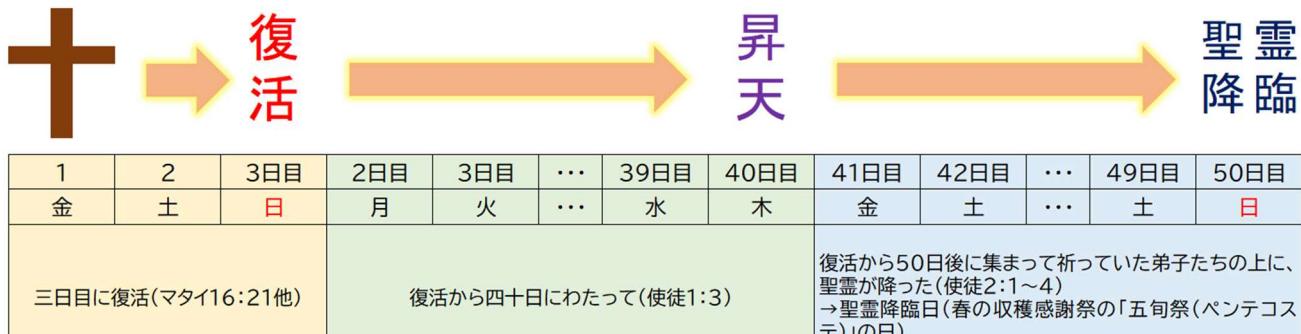
イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。51 そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。52 彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、53 絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

### 使徒 1:3~11 (40日間の顕現のまとめ)

#### 使徒言行録 1:3~11

イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。4 そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。5 ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を受けられるからである。」6 さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。7 イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。

8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」9 こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。10 イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、11 言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」12 使徒たちは、「オリーブ畠」と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近く、安息日にも歩くことが許される距離の所にある。



[完]

②上記の聖句は、四福音書にある「イエス・キリストの最後の晚餐から、十字架、復活まで」を記したものですが、マタイ 27:47~49、マルコ 14:22~26、15:35~36、ヨハネ 19:29 の聖句は記載していません。

2025.12.05  Hajime Taniguchi